

大阪府教育センター附属高等学校 第10回入学式式辞

240名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本来ならば、4月に入学式が実施できればよかったのですが、新型コロナウイルスによる感染症に伴う感染拡大防止の観点から、このような時期の開催となり、また、保護者や来賓のみなさまにご臨席いただけない状況での開催といたしました。保護者のみなさまには何とぞご理解いただきますよう、みなさんからもよろしく伝えておいてください。ただ、わたくしがこの4月に初めて校長になったということもあり、新入生のみなさんの入学を祝福する気持ちと3年間で大きく成長してほしいという思いは、相当強いものがあります。

分散登校が始まる時に出したメッセージにもありますとおり、学校に登校できなかった期間に感じたこと、考えたこと、気づいたことが、この後のみなさんの高校生活にとって意義深いものとなるよう願っています。

さて、本校は平成23年4月に、大阪府教育センターと一体となって先進的、先導的な教育実践に取り組むナビゲーションスクールとして誕生しました。教育センターと連携した取組みを行い、取組みの成果を発信する役割を担っていくなかで、教育センターの人材等の豊富な資源を活用できることは、本校の大きな利点となっています。

生徒のみなさんには、仲間とともに学び、ともに敬い、ともに高まることで自分の可能性を伸ばし、高校生活の3年間を通じて、豊かな感性、確かな学力、あくなき探究心を身につけてほしいと願っています。みなさんの成長を楽しみにしています。

では、成長するためには何が必要なのでしょうか。私自身の人生を振り返ってみると、いろいろなことに「気づく」ことが自分の成長につながったと感じています。「自分の知識のなさに気づく」「自分の思いやりのなさに気づく」といった自分に足りないところに気づくパターンもあれば「自分の思わぬ長所に気づく」といったパターンもあります。最近の私の気づきは「当たり前のがたさに気づく」でした。スーパーやコンビニの店員さん、宅配便や郵便物を届ける方々、電車や路線バスの運転手さんなどなど。この人たちがいるおかげで物が買え、物が届き、移動することができるということにあらためて「気づく」とともに、このような事態になったからこそ、普段は意識できないうつなりに「気づく」ことができ、この人たちへの尊敬の念を持つことができるという心の成長を得ることができたのです。

みなさんも多くの気づきを積み重ねることで成長して行ってください。入学式がこの時期に行われたというだけで十分思い出深い高校生活の始まりになっていますが、これからも、より思い出深く有意義な高校生活を送ってほしいという願いをお伝えして、入学式の式辞といたします。

令和2年6月15日

大阪府教育センター附属高等学校
校長 中瀆 秀徳